

今の生活になじむ風呂敷

風呂敷のデザイン展開

Furoshiki that fits your current life Furoshiki design development

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 生活文化マネジメント研究室
岡本 花梨 指導教員 氏家 和彦

キーワード：風呂敷、生活、現代

1 研究概要

今も風呂敷をバックとして使う取り組みはあるが、実際に使われていることはほとんどない。このことから、風呂敷そのものが今の生活に合っていない部分があるのでは無いかと考えた。

こんな風呂敷が日常生活でバッグ・鞆として風呂敷を使うことが出来れば鞆を無駄に買わなくなり、無駄遣いがへると考えられる。また、エコバッグとしての新しい形の可能性が考えられ、それにより、ビニール袋をスーパーなどで使う必要がなくなるので、ゴミ問題の解決にもつながると考えられる。

2 調査内容

風呂敷に以下のような調査を行った。

2-1 風呂敷の歴史

風呂敷は江戸時代には風呂敷は旅行かばんとしても広く使われていた事がわかった。「風呂敷」という言葉が一般に用いられるようになったのは、江戸時代 18 世紀に入ってから。お伊勢参りや日光詣といった「旅行」が流行ったのもちょうどこの時代。風呂敷は旅行かばんとしても広く使われ、

浮世絵や絵図の風景にも風呂敷包みを担いだ庶民が街道を行き交う姿が多く見られる。そこに描かれた人々が十人十色さまざまな風呂敷の使い方をしている。風呂敷包みを手に掲げる人(図1)もあれば小脇に抱える人、背中に背負っている人もいる。腰に巻き付けたり、頭の上に乗せて荷物を運ぶ人もいて、担いだ棒の前とうしろに風呂敷包みをぶら下げて歩く姿も見られる。それぞれ自分の荷物にあわせて風呂敷を上手に使いこなしている様子が見て取れる。



(図1) 浮世絵

2-2 風呂敷の現状について

今の風呂敷の使われ方としては贈答品としての使用が殆どで、実用品としてはあまり使われていないと、いうのが現状。

なぜ日常的に使われていたのに、使われなくなったのか

昭和38年にスーパーなどが紙袋サービス、40年にはビニール袋提供をはじめ、そこから買った物の持ち運びのために持ち歩いてきたふろしきを徐々に持ち歩かなくなっていた事が分かった。

どうして日常的に使わないのかアンケートをとった結果

使い方が分からない、洋服に合わない頼りない、わざわざ風呂敷を使う必要性ない、収納スペースが無いと言う意見があげられた。

2-3 使う事よっての利点調査

日常的に風呂敷を使う事よっての利点は、

- ・持ち物が減る
- ・鞆をいくつも買わなくてよくなる
- ・持ち運べるものが増える

・一枚でいろいろな用途が出来る
という物があげられた。

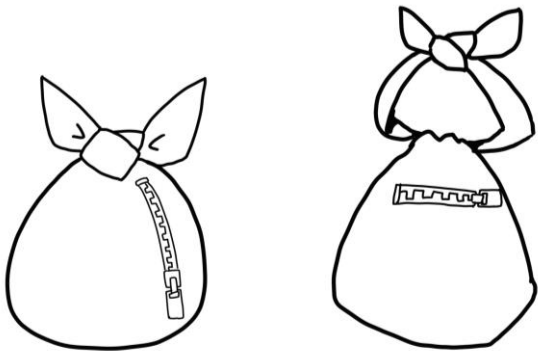
・丸和商業株式会社
<http://www.furoshiki-kyoto.com>

3 コンセプト

提案物は洋服にも合い、今の生活になじむ風呂敷、小分けできるもの、今までの風呂敷のイメージを壊すものたたみ方が分かりやすいもの、といった物をかんがえた。

4 アイディア展開

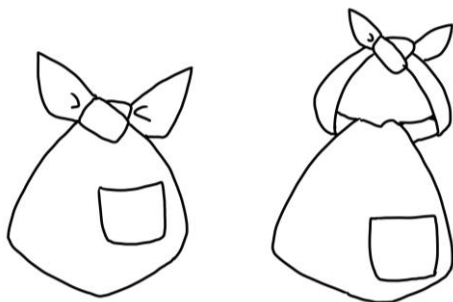
チャックなどをつけ、取り出しやすいもの結ぶと何かの形になるもの、ポケットを新たにつけ、収納をふやしたものの試作品を作る。



案 1



案 2



案 3

参考文献

・京都掛札

http://www.kakefuda.co.jp/furoshiki/furoshiki_history.html